

アカゲラ通信



動植物の長い名前を覚えるちょっとしたコツと名前あれこれ

動植物の長い名前、覚えるのが大変・・・そこで今回は長い名前を覚えるコツを。

言葉を分解して意味を理解すると覚えやすくなります。旭山で見られる種を例に見てみましょう。

- **エゾスジグロシロチョウ** (写真1) : 「エゾ」「スジ」「グロ」「シロ」「チョウ」と5つの言葉に分解できますが、意味は「北海道の」「筋が」「黒い」「白い」「蝶」です。
- **ヤマキマダラヒカゲ** (写真2) : 「山(の)」「黄(色い)」「まだら(の)」「日陰」。ヒカゲチョウの仲間ですが、最後につくはずの「蝶」が省略されており、昆虫(ベニシジミ(チョウ)等)や植物(キンエノコロ(グサ)等)ではこのように、種の総称を表す最後の言葉が省略されることがあります。
- **ケチヂミザサ** (写真3) : 「毛(のある)」「縮み」「笹」、ケチで地味な笹ではありません・・・「チヂミザサ」の毛がある変種で、同じイネ科ですがササとは別の仲間です。今の時期に見られます。
- **ナガボノシロワレモコウ** (写真4) : 「長(い)」「穂の」「白」「吾亦紅」で、「ワレモコウ」はバラ科の一群の総称ですが、この言葉もさらに細かく分けられそうです。旭山では数年に一度出る花です。



● **エゾノコンギク** : 「エゾノ」と名がつく植物は多いですが、これは「蝦夷」「野(にある)」「紺」「菊」という意味で、「蝦夷の」ではありません。本州にある「ノコンギク」の「エゾ」版です。

● **ハシブトガラス、ハシボソガラス** : 「嘴(の)」「太(い)」または「細(い)」「鳥」で、嘴の特徴をそのまま表しています。

● **クサレダマ** (写真5) : 旭山では見られない生き物の話もいくつか。こちら一見(一聴)すると「腐れ」「玉」に思えますが、「草」「連玉」が正解。マメ科のレダマという植物に似た草本という意味ですが、なんだかちょっとかわいそうな名前と思ってしまいます。



● **キンクロハジロ** (写真6) : これも旭山では見られないカモ類ですが、「金」「黒」「羽」「白」と、名前に色が3つも入っています。



● **クロウタドリ** : 昔は「苦労」「辿り」とはなんともかわいそうな名前と思っていたましたが、ビートルズのBlackbirdという曲がこの鳥をモチーフにしていると知って、そうか「黒」「歌鳥」か! と気づきました。カタカナの名前を一連の音としてとらえると覚えにくいですが、長い名前は、種の分類が進み種が増えたことで起こった「苦肉の策」なのです。

長い名前に出くわしたら、言葉を分けて考えてみてください。きっと何かが見えてきますよ。

レストハウス「ぽるく」通信 2023年9月

記録的な暑さが続きましたが、ここ数日は一気に秋の気配を感じます。

旭山記念公園レストハウスでは先月、今年度初めてのバザールが開催されました。お天気にも恵まれたくさんのお客様へ新鮮な野菜をお届けすることができました。次回は **9月23日(土)** を予定しております。

涼しくなりお散歩にも出かけやすい日々がやっとやってきました。

レストハウスぽるくでは飲み物や食事、軽食をご用意しております。

そして、なんといってもソフトクリーム。とても美味しいと評判をいただいております。ぜひ、お散歩の寄り道はぽるくで!



噴水の運転は毎日 10時～20時です

旭山野鳥メモ 53 チゴハヤブサ

チゴハヤブサ Eurasian Hobby *Falco subbuteo* ハヤブサ目ハヤブサ科

北海道と東北で夏鳥。それ以外は渡りの通過で見られる。北海道では農耕地周辺で比較的よく見られる。周りの視界が開けた場所のカラスの古巣を補強し営巣する。トンボをよく捕食する。

旭山では新参者。以前は稀に上空を飛んでいるのが見られただけだが、2020年頃から旭山の近くで繁殖するようになり、観察機会も増え、今では割合普通に見られるようになった。「キッキッ」と飛びながらよく響く声で鳴き、近くに来るとすぐ分かる。

胸から腹がタテ縞であること(ハヤブサは横縞)、下腹部が赤いことでハヤブサと識別できるが、幼鳥はまだ赤くなく、さらにハヤブサも幼鳥は胸がタテ縞で、幼鳥では混同することもある。



かつてハヤブサ科は同じ猛禽のタカ目に入っていたが、近年の分子系統解析により分類が見直され、今は独立しハヤブサ目となった。ハヤブサ目はスズメ目やオウム目に近く、むしろタカ目とは遠いことも分かった。

ハヤブサの仲間は速く飛ぶことに特化し、森の中を飛ぶことができない。そこがタカ類との大きな違い。

旭山では幼鳥が巣立った9月に飛ぶ姿を見る機会が多くなる。3羽、4羽で連れ立って飛んでいることも。

今年で4年続けて旭山周辺で繁殖。来年以降も繁殖し「旭山の鳥」として定着するかどうか、見ものだ。

2023年9月の野鳥トピックス

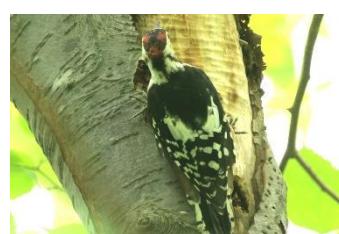
- ・カケス(亞種ミヤマカケス): 9/8 この秋初めて確認。例年9月中に山から降りてきて、翌年4月まで見られるようになります
- ・コサメビタキ: 8月も学びの森でよく見られ、遊具広場、森の家周辺や巨木の谷等でも時々見られています。例年9月中は見られます
- ・シマエナガ: 日に一度は見られ、時々10羽以上の群れで来ています
- ・キクイタダキ: 8月にも観察されましたが1羽でした。今後要注目です
- ・キビタキ: 森の中で時々不意に会う感じで9月いっぱい見られます
- ・クマゲラ: 9月に入り園内で見られる機会が増えてきました
- ・ヤマゲラ: 8月も主に朝に遊具広場から学びの森そしてつり橋付近での観察情報が多かったです
- ・ヤマガラ: イチイ(オンコ)の種子はまだ緑色ですがもう食べに来ています。これから観察にいいでしょう



旭山ミニ図鑑2023年9月



胡桃をくわえて走るエゾリス



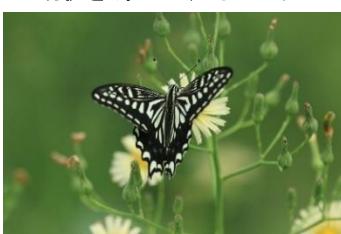
アカゲラ幼鳥羽終わりかけ(頭部)



ほぼ全身真っ赤なナツアカネ



最もよく見る赤とんぼアキアカネ



旭山では少ない(ナミ)アゲハ



ヤマハギは低木に咲く花



変わった咲き方アキノゲシ



秋を代表する花エゾゴマナ



「アカゲラ通信」 第119号 2023(令和5)年9月9日発行
(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所
<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目
電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351